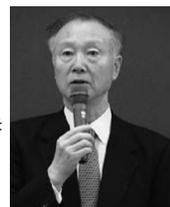




・挨拶をする辻村哲夫
財団常務理事
(写真右)



・講演をする藤沢章彦
財団理事 (写真左)

ONKAN 第11回「新・冬の勉強会」レポート

よりよい授業を求めて

～指導と評価のポイント～

教員免許状更新講習（選択12時間）認定

●第11回「新・冬の勉強会」が、昨年の12月26日、27日の2日間にわたって、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に行われました。その模様をレポートします。

12月26日（木）

1. 講演「よりよい授業を求めて」
藤沢章彦（文教大学講師・財団理事）
2. 講演「音楽科における授業改善の現状と課題」
津田正之（文部科学省教科調査官）
3. ワークショップ「指導と評価から考える
『よりよい授業』」 提案：音鑑研究委員会

2. 講演「音楽科における授業改善の現状と課題」

津田正之先生からは、各地で取り組まれた研究授業の様子を例に引きながら、指導の充実のために重要な要素として、

- ・領域・分野の関連
- ・言語活動の充実
- ・学習形態の工夫
- ・教師の働きかけ



の4点が挙げられ、それによって、ともに学び高め合う学習へと向かうこと、また、教師が高まった子どもの姿をいかに具体的にイメージできるかが鍵となり、その姿にするためにどのような指導が必要かを考えていただきたい、などの提言がありました。

◆アンケートから◆

- ・授業のゴールイメージを明確にすることが印象的でした。
- ・授業映像などを見られたことや、重要な課題点をわかりやすく教えていただいたことが勉強になりました。

3. ワークショップ「指導と評価から考える『よりよい授業』」

参加された先生方には、(1)〔共通事項〕を窓口にした楽曲分析、(2) 授業展開における支

援の工夫 の2つを実際に体験し、「よりよい授業」について考えていただきました。

◇各ワークショップのテーマ・教材・講師◇

<小学校A>

教材：『シンコペーテッド・クロック』（アンダソン）
 テーマ：音楽づくりと鑑賞の関連を考えて
 石井ゆきこ（東京都荒川区立尾久第六小学校主任教諭）
 館 雅之（神奈川県横浜市立綱島小学校副校長）

<小学校B>

教材：『白鳥』（サン＝サーンス）
 テーマ：体の動きを取り入れて
 河崎秋彦（茨城県つくば市立二の宮小学校教諭）
 江田 司（和歌山大学教育学部附属小学校教諭）

<中学校C>

教材：『春』（ヴィヴァルディ）
 テーマ：ソネットと音楽のかかわりを見直す
 長者久保希史子（青森県八戸市立三条中学校教諭）
 安部文江（信州大学教育学部附属松本中学校教諭）

<中学校D>

教材：雅楽『越天楽』
 テーマ：管絃『越天楽』から舞楽まで
 勝山幸子（東京都港区立六本木中学校主任教諭）
 萬 司（北海道札幌市立柏丘中学校教諭）

(1) [共通事項] を窓口にした楽曲分析

実際に音楽を聴きながら、楽曲分析のよりどころとして〔共通事項〕を窓口、音楽のどの部分か、どのような特徴か、ということが具体的に分かるようにワークシートに書いていきました。しっかりと分析し、具体的にすることで、指導と評価が一体となった授業づくりができるという考えです。

<小学校A：音楽づくりと鑑賞の関連を考えて>



楽曲分析を進める際、表現と鑑賞の関連を図った題材では、表現教材、鑑賞教材それぞれの教材について分析し、関連を図る部分を明確にします。

[共通事項]		音楽づくり	鑑賞
ア	音色	木質系と金属系の小物打楽器の音色の様々な音の出し方	ウッドブロック(A)とトライアングル(B)の音色、カウベルとスライドホイッスルの音色 (Coda)
	リズム	4拍または8拍の即興的なリズムづくり	拍を刻む一定のリズムとシンコペーションのリズム
	速度		Moderately (中ぐらいの速さ)
	旋律		Aの旋律 (弦楽器によるアフタクトと)

(小学校Aで使用したワークシートから)

<中学校D：管絃『越天楽』から舞楽まで>

実際に音楽を聴きながら楽曲分析する際は、生徒の立場になって、本当に生徒が聴き取れるのかにも注意しながら進め、ワークシート（下記）に書いていきました。また、映像教材については、映像の内容についても把握しました。



1. 管絃『越天楽』を視聴し、〔共通事項〕を窓口分析・整理します

ア	音色		
	リズム		
	速度		
	旋律		
	テクスチャ		
	強弱		
	形式		
	構成		
イ	用語や記号		

(中学校Dで使用したワークシートから)

(2) 授業展開における学習評価と支援の工夫

学習を展開するなかで、学習内容に対して子どもたちの活動がしっかりできていない場合の対応をチェック&フォローアップとして、ていねいな支援の方法を考えました。

<小学校B：体の動きを取り入れて>



旋律の特徴を感じ取る学習について、指導の流れを提示し、実際

に体の動きを取り入れた活動を体験しました。

体の動きについては、旋律の特徴の“何を”表すのか、〔共通事項〕を窓口にして具体的にしました。



▲旋律の特徴を右手の動きで表わしながら聴く場面

<中学校C：ソネットと音楽のかかわりを見直す>

『春』の構造を理解していく学習展開では、



自分なりの価値を考える学習への過程で、生徒がうまく知覚・感受できなかった場合の対応(チェック&フォローアップ)を考えました。

◆アンケートから◆

- ・〔共通事項〕を窓口に、ということが具体的にどのようにすればよいのか、授業の組み立て方から評価に至るまでみてきました。
- ・具体的な授業の展開を通して、指導と評価について詳しく学ぶことができた。
- ・「どの子にも…」ということで、支援(フォローアップ)について、具体的なお話しが勉強になった。私も、表面だけでなく、子どもができなかった時の手立てをよく考えていきたい。

12月27日(金)

4. 提案「『よりよい授業』をめざして」

提案：音鑑研究委員会 助言：津田正之

5. 音楽講座

「日本音楽の不思議」

田中健次(茨城大学教授)

「箏・三味線・尺八の多様な魅力を聴く」

滝田美智子(箏奏者)／素川欣也(尺八奏者)

／本條秀慈郎(三味線奏者)

4. 提案「『よりよい授業』をめざして」

「学習評価の視点を生かした授業の改善への取り組み」として、第1日目のワークショップのもととなる研究委員会の考えについて提案しました。



音鑑研究委員会から 吉川武彦、萬司、館雅之 各委員



◆ [共通事項] を窓口にした楽曲分析

- ・教材（楽曲）について分析し、[共通事項]を具体的にすることによって、指導も評価もしやすくなる。
- ・子どもの実態に合わせ、子どもの立場になって楽曲分析する。
- ・指導事項とかかわらせ、時数を考え、間口を広げすぎないように絞り込む。絞り込む際は、何を指導するのが肝心。

◆学習活動と評価活動の見通し

- ・学習活動の様子から、わかっていない、できていないと判断した場合は、適切な支援が必要になる。
- ・出口（評価）を考えると入口（ねらい）と通り道（指導法）が明確になる。子どものゴールの姿を具体的に考えることで、指導と評価が一体となった授業が展開できる。

◆アンケートから◆

- ・[共通事項] を絞り込むポイントをとってもらいに教えてくださって、すぐに指導計画に生かしたいと思いました。
- ・評価と指導の一体化、教材分析と焦点化の重要性が改めてわかった。
- ・全ての生徒がわかる、できるためのチェックとフォローアップをして授業を行う大切さがよくわかり、自分でも努力しようと思った。

5. 音楽講座

◆「日本音楽の不思議」



田中健次先生からは、日本の音楽各ジャンルがどのように生まれ・発展し、また、それぞれがどのようにかかわってきたのか、日本の伝統音楽の全体像をわかりやすくお話しいただきました。

さらに「伝統とは何か？」を考えました。

◆アンケートから◆

- ・ややこしい日本音楽全体を、楽しく、わかりやすくお話しいただきとても参考になった。
- ・田中先生の“伝統”に対する思いに心打れました。

◆「箏・尺八・三味線の多様な魅力を聴く」

箏、尺八、三味線の楽器について、それぞれの楽器や音の特徴をお話しいただき、演奏を聴きました。



左から、滝田美智子、秦川欣也、本城秀慈郎 各講師

◆アンケートから◆

- ・目の前で演奏を聴くことができ、楽器の音や余韻の魅力に惹きこまれた。
- ・音楽や楽器についての新たな知識を得ることができた。